

ヒオモン水溶剤によるりんご「ふじ」の裂果軽減効果と使用上の留意点

【1 成果の概要】

- (1) 「ふじ」では、裂果が多い傾向の年において、ヒオモン水溶剤の満開 20～30 日後散布により、裂果の軽減効果がみられます（図 1）。
- (2) 「ふじ」のヒオモン水溶剤散布区の果実品質や花芽率に、無処理区との差はみられません。
- (3) 「ふじ」以外の品種については、裂果軽減効果を確認できていません。
- (4) ヒオモン水溶剤の有効成分、使用基準は以下のとおりです。

○有効成分：1-ナフタレン酢酸ナトリウム 4.4%

○使用基準

作物名	使用目的	希釈倍率	使用液量	使用時期	使用回数	使用方法	1-ナフタレン酢酸を含む農薬の総使用回数
りんご	つる割れ軽減	3000倍	300～600L/10a	満開20～30日後	1回	立木全面散布	3回以内

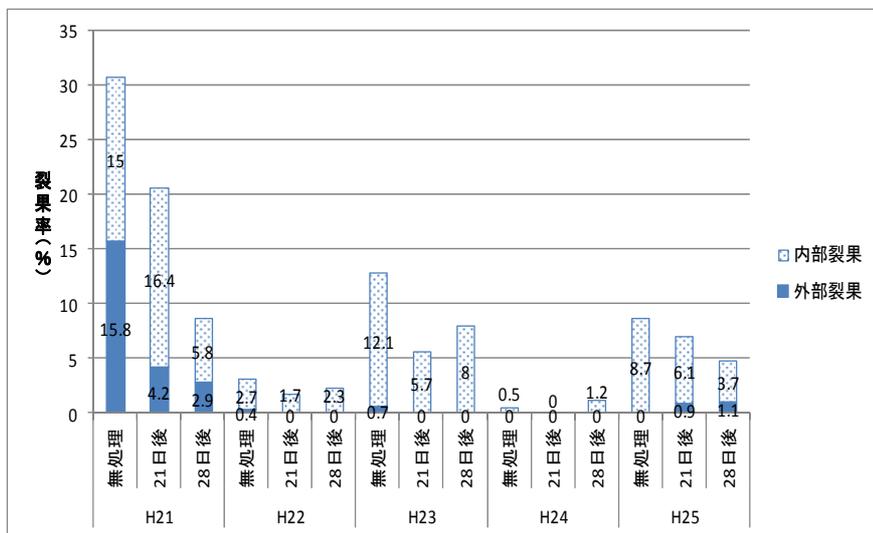


写真 新梢のエピナスティ症状

図 1 ヒオモン水溶剤散布樹の裂果割合 (ふじ)

※収穫期に全果実を割り、裂果状況を調査 (各区 2～4 樹の平均値)

【2 留意事項】

- (1) 本剤は単用散布とします。
- (2) 本剤散布後に新梢の葉が巻いたり、しおれる症状 (エピナスティ) が発生しますが、1 週間程度で回復します (写真)。
- (3) 著しく樹勢が弱い樹には散布を控えます。
- (4) 開花期が平年より早い年や、7 月下旬～9 月上旬の降水量が多い年などに裂果が多発する傾向があります。
- (5) 土壌の排水対策や適正樹勢を保つなどの耕種的な裂果対策も併せて行います。
- (6) 摘果剤 (ミクロデナポン水和剤 85) を散布後に本剤を散布すると、摘果効果が抑制される場合があるので、摘果剤の効果 (果実軸部分の退色、軽い接触での落果等) を確認したのちに本剤を処理します。
- (7) 本剤散布により果実肥大が抑制される場合があります。